



株主通信

2012

第30期

Business Report 2012.1.1-2012.12.31

JASDAQ 証券コード：3386

Inspiration for Life Science

特集

「アンチエイジング」を
取り巻く基礎研究



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

「ライフサイエンスの**進歩・発展に貢献**する」ため、
お客様の**ベスト・パートナー**であり続けます。

コスモ・バイオは、経営理念の第一番目に
「ライフサイエンスの進歩・発展に貢献する」というミッションを掲げています。
1983年の会社設立以来、この理念を基礎とした経営を推し進め、
この分野の独立系専門商社としては
国内トップクラスの地位を築くまでに成長してきました。

私たちコスモ・バイオは、
常にお客様のベスト・パートナーであり続けるために、
4つのバリューの提供を心掛けています。



トップインタビュー



代表取締役社長

笠松 敏明

当期(2012年12月期)の連結業績について

Question

1 当期の連結業績はいかがでしたか？

当期の連結業績は、売上高が前期比0.7%増、経常利益が同6.4%減となり、当期も厳しい1年が続いたという印象を持っております。

売上高が伸び悩んだ要因としては、主に、市場全体の動きが活発さを欠くものだったためです。前期は企業の研究活動が比較的堅調に推移していましたが、当期は研究分野の絞り込みや国内での研究開発活動の見直しなどの動きが見られました。また、大学・公的研究機関には前年を超える政府予算が付いたものの、先行きの不透明感から予算執行に慎重さ

2012年12月期の連結業績

(単位:百万円)

	前期 実績	当期		前期比 増減	当初予想比 増減
		当初予想 (2月13日公表)	実績		
売上高	7,192	7,400	7,241	+0.7%	-2.1%
営業利益	891	775	798	-10.5%	+3.0%
経常利益	856	823	801	-6.4%	-2.6%
当期純利益	458	480	411	-10.3%	-14.2%

が見られ、全体として低調な動きとなりました。

一方、経常減益の主要因は、営業政策的な面が大きく、営業活動を早期に震災前の水準に戻すべく販売費及び一般管理費を前期よりも1億円近く増加させたためです。

コスモ・バイオの強みと戦略について

Question

2 今後の成長の基礎として、コスモ・バイオにはどのような強みがありますか？

ライフサイエンス(生命科学)という分野は、最先端科学として期待と注目が集まる分野であり、当社はその中で、基礎研究に不可欠な試薬や機器を、幅広い研究者の専門的なニーズに対応しながら販売しております。このライフサイエンスの基礎研究用の試薬・機器を販売している会社は数多くありますが、幅広く品揃えしている会社は少なく、当社は本分野における大手専門商社の一角を占めています。

競争力という面で当社の強みを挙げるとすれば、「豊富な品揃え」と「マッチング能力の高さ」だと考えております。

Question

3 「豊富な品揃え」と「マッチング能力の高さ」とは、具体的にどのような強みですか？

当社が取扱う商品は現在約300万品にのびります。一言でライフサイエンスと言ってもその研究分野は非常に多岐にわたっており、当社は広く活用されているものから新たに開発されたユニークなものまで幅広く品揃えすることで、あらゆる研究活動を支援していきたいと考えております。この300万品もの膨大な商品の中から研究者の活動にマッチした商品をいち早く、適切に探し出すために、当社は独自の商品情報検索システムを業界他社に先駆けて開発し、皆様に提供してきました。ただ、研究者は常に最先端の研究をしてい

トップインタビュー

まずし、新しい試薬もどんどん開発されますので、進化し続けるニーズとシーズをマッチングさせるためにはシステムだけでは不十分です。そこで当社は「人」と「組織」に力を入れております。研究者のニーズを的確に掴む営業担当、新しい研究用試薬の動向を掴む開発・マーケティング担当、研究者の問合せ等に対応して専門的な情報を提供する学術担当などを配し、常にベストなマッチングを追求しております。



Question 4 コスモ・バイオは今、どのような戦略を推し進めていますか？

当社は、強みを活かした成長と新たな強み・特徴を備えていくことによる成長の両面で、戦略展開を考えております。

現在推進中の重点戦略は、

- ① 商品および情報・物流サービスの充実・強化
- ② 自社ブランド力の強化
- ③ 海外展開の推進

の3つです。①は現在の強みを更に強化する取り組み、②はメーカー機能を活かした新たな強みの創出、③は成長の場を海外に広げていく取り組みです。

当期の取り組みと今後の展望について



Question 5 当期はどのような方針のもとで取り組み、どのような成果がありましたか？

当期は今後の成長のための基盤づくりに注力し、一定の成果を上げることができたと考えております。

まず、商社としての基本である情報サービスについては、2011年末に商品情報検索システムの大規模なリニューアルを行い、当期は商品情報の整備と検索機能強化を図りました。また物流サービス面では、当期に準備を進めていた新物流センターが2013年1月より稼働しました。従来の約4倍の延床面積、5つの温度帯での保管設備、新たに導入したバーコードによる物流管理システム等によって、商品の品質維持、迅速・確実な物流、業務効率の更なる向上を図ります。

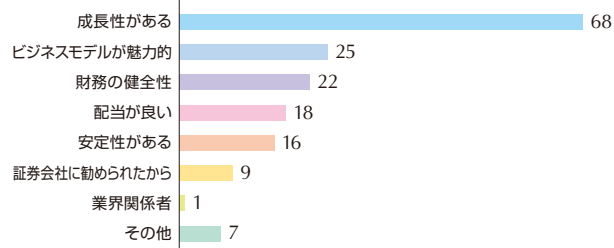
株主様アンケートのご報告

第30期第2四半期株主通信において、第1回目となる株主様アンケートを実施させていただいた結果、253名の株主様よりご回答をいただくことができました(回答率8.4%)。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

ご回答いただいた株主様の男女比は男性83%、女性17%、年齢構成は幅広い層に分布しました。また、当社株式の保有理由や今後当社に期待することは右のような結果となりました。皆様の貴重なご意見を参考にさせていただきながら、今後のIR活動の一層の充実と、積極的な経営による成長の持続を図ってまいります。

● 当社株式の保有理由(複数回答あり)

(単位: %)



自社ブランド力強化の取り組みとしては、細胞関連の製品を開発している子会社(株)プライマリーセル、および米国子会社COSMO BIO USA, Inc.との連携体制がうまく機能し始め、当社グループ独自の商品や受託業務が順調に増加してきております。

海外展開については、海外ビジネス拡大の基礎となる海外販売網の拡充に取り組んでおり、2013年中には海外販売代理店を30社程度まで増やす予定です。



今後の戦略展開と展望をどのようにお考えですか？

先の3つの戦略は、1年で達成できるものではなく、長期的な経営テーマと捉えております。特に自社ブランドづくりと海外展開は、今後も継続して取り組んでいかなければならないものです。自社ブランド力の強化は海外ビジネスの拡大にも大きく寄与します。海外ビジネスをできるだけ早期に売上比率10%を超える規模に押し上げ、収益の柱の一つにして

いきたいと考えております。

また、ライフサイエンス研究は前述の通り最先端の科学分野であり、新たな発見や技術開発などによって研究トレンドが大きく変化していきます。当社では現在、細胞関連分野、RNA関連分野、創薬関連分野を今後の有望市場と捉え、積極的な品揃えと営業活動を展開しております。

2012年12月、ライフサイエンス関係者にとって大変嬉しい出来事がありました。山中教授のノーベル賞受賞です。この影響で、iPS細胞やライフサイエンス研究への関心が膨らみ、当社の株式も注目を集めることとなりました。これまで、当社のような、研究者を支援する立場の企業が注目されることは多くありませんでしたが、この機会にさらに多くの方々のご理解を賜ると同時に、これからも、日本を含む世界のライフサイエンス研究者の支援に力を注いでいきたいと考えております。

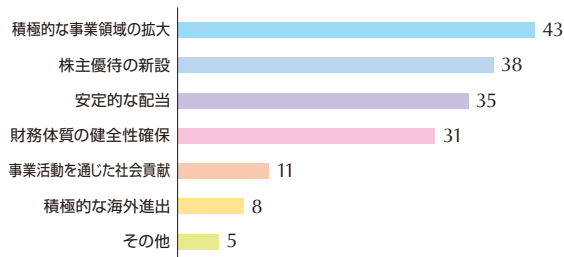
株主の皆様には引き続き、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

アンケート結果の詳細は、当社ウェブに掲載しています >>>

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/report/>

● 今後当社に期待すること(複数回答あり)

(単位:%)



● 株主の皆様のお声の一部

- 株主総会、会社説明会を休日に行ってほしい
- 株価を上げる対策をしてほしい
- 御社と株価の成長を願っています
- 円高なのに二桁の減益だと円安になった場合が心配
- 長期保有予定なので株主優待に期待している
- もっと株主を増やして一部上場へ
- 株主還元方針に賛同していますので、今後も継続できるよう業績向上に努めてください
- 御社の情報を読むと、遠いようで近い会社だなと思いました
- iPS細胞関連の事業拡大に期待している
- 社会に貢献する立派な事業内容ですので、頑張ってください
- 独自性のあるユニークな製品に期待しています

特集：「アンチエイジング」を取り巻く基礎研究

歳をとらずいつまでも若々しくありたい、つまり長寿へのねがいは、むかしむかしの物語から語られてきた、人々の夢でもあります。歳をとらないことへの挑戦。いま、科学の世界では、「老化」に対してどのようなアプローチがなされ、今後どのような可能性があるのでしょうか。



老化ってどうしておこるの？



からだを構成する細胞は、分裂して増える一方で古くなったものは代謝されて消えていきます。でも、やがて細胞は分裂しにくくなったり、一定の回数まで分裂すると、もうそれ以上分裂できなくなったりします。こうして、からだの臓器や組織のはたらきが低下してしまう。これがすべてのヒトに起こる**生理的老化**。

でもそれだけではありません。遺伝的要因や生活・環境要因などが複雑に絡み合って老化は進んでいきます。これが、**病的老化**。この病的老化を防ぐ取り組みが「アンチエイジング」です。

生理的老化

すべての人に起こる

(基本的には不可逆)

病的老化

個人差が大きい

アンチエイジング

「病的老化」を食い止めること



アンチエイジングってよく聞くけど、ほんとに老化を防ぐことなんてできるの？



できます。基礎研究の成果ですでに何が効果的かわかっているものもあり、いまでも、からだのなかでどのようなしくみで老化が進んでいるのか、たくさんの基礎研究が進んでいます。病的老化ばかりでなく生理的老化だって、基礎研究によって克服できるかもしれません。



老化（病的老化）は、酸化ストレスやDNA損傷が原因で、最近では、タンパク質の糖化も原因だということがわかってきています。

病的老化の 原因の例

- **酸化ストレス**：活性酸素により細胞がダメージを受け、臓器や組織の機能が低下
- **DNA 損傷**：放射線や紫外線、化学物質などでDNAが傷つき、異常なタンパク質がたまって、アルツハイマー病や白内障に
- **糖化**：糖の摂りすぎでからだを構成するタンパク質が糖と結合（糖化）し、肌の老化や動脈硬化に

リンゴをむいてしばらくすると茶色くなったり、年が経つと釘がさびたりするのとおなじようなこと（＝酸化）がヒトの体内でも起こっていて、これが機能低下の原因のひとつ。肌の老化防止のためにできるだけ紫外線を浴びない（UVカット）ように注意したりしますが、実は、糖（甘いものだけでなくごはんなどの炭水化物）の摂りすぎも、しわやたるみ、くすみの大きな原因なのです。

ライフサイエンスの基礎研究では、どうして老化が起こるのかの解明だけでなく、どうしたら老化を防ぐことができるのかについても日々研究が進められています。



日々進んでいる基礎研究の一例



1 ハリ・ツヤのある若々しい肌をいつまでも！

最近の研究で注目され始めているのがタンパク質の「糖化」です。糖を過剰に摂取するとタンパク質に糖が結合し、その結果、「AGE」という老化を促進させる物質が増えてしまいます。ヒトのからだの血管や筋肉、肌などはタンパク質でできていて、AGEが増えたらこうしたタンパク質でできた組織がどんどん変性・劣化してしまうことが解明されています。できてしまった「AGE」を分解するメカニズムは今のところはまだ分かっていませんが、今後の基礎研究によって明らかになる日が来るかもしれません。

○ AGE増加に伴う主な老化現象

肌 ▶ くすみ、しわ、たるみ

血管 ▶ 動脈硬化

骨 ▶ 骨粗鬆症



2 長寿遺伝子をコントロール？

「サーチュイン」ということばを聞いたことがあるでしょうか？長寿遺伝子とも呼ばれる、ヒトを含むほとんどの生き物がもっている遺伝子です。この遺伝子は普段は働いていませんが、これを活性化させることで「老化」を遅らせ、寿命をのばすことができるということが最近の研究結果としてたくさん報告されています。サーチュイン遺伝子はどのように機能し、どう制御されているのか？解らないことはまだまだたくさんありますが、現在、この遺伝子を活性化させるくすりの研究開発が盛んに行われています。

なるほど！
基礎研究って未来を
変えるかもしれない
大きな可能性を
秘めているのね！



3 iPS細胞で夢の治療が実現？

老化（生理的および病的）によって低下した臓器や組織の機能は、本来は元に戻すことができません。それが従来の医学の常識でした。しかし、老化した臓器や組織をiPS細胞の技術で再生させれば、老化の進行をリセットできる可能性があります。iPS細胞では、皮膚や血管のほか、心臓や脳の神経細胞の再生などについても活発な研究が行われています。長寿の人からつくったiPS細胞を調べることで、長寿の秘密を解き明かす日も来るかもしれません。

古くなった臓器
病気の臓器

iPS細胞
で再生

老化を
リセット！

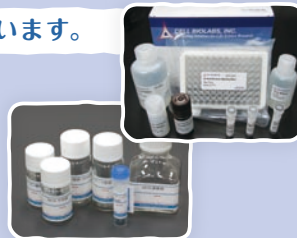
アンチエイジングをテーマとした基礎研究でも、コスモ・バイオの商品が活躍しています。

生活習慣の改善をはじめとするアンチエイジングは既に身近になりつつありますが、老化のメカニズムのすべてが明らかになったわけではありません。まだまだ基礎研究で調べることはたくさんあります。この基礎研究をサポートするために、当社グループは様々な老化研究用試薬を取り揃えています。

タンパク質やDNAの
損傷を調べる試薬

老化のメカニズムを
調べる試薬

老化を促す／抑える物質を
調べる試薬



トピックス



商品配送センターを移転 2013年1月より業務を開始

業容拡大に伴い、商品配送センターを移転し、2013年1月より新砂物流センターにて業務を開始しました。商品保管設備を一新し、適切な在庫と保管によって、研究者に高品質な商品をより迅速にお届けしてまいります。



オープン記念式典



商品保管庫



毎年恒例の 「公開講座応援団」を実施

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています。2012年度は、9団体の公開講座に協賛しました。

2012年度に開催された講座の一例

福島大学わくわくJr.カレッジ サイエンス屋台村



「個人投資家向け会社説明会 (四日市・東京)」を開催

2012年10月に、SMBC日興証券四日市支店において会社説明を行いました。また、東京では11月にモーニングスター株式会社主催の会社説明会に参加しました。



当ウェブにて、説明会の資料およびQ&Aがご覧いただけます。

ホーム > IR情報 > 個人投資家向け会社説明会

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/individual/>



当社ウェブにて公開中の 「会社案内動画」を リニューアル

IR情報ページで公開中の「会社案内動画」をリニューアルしました。当社の事業内容や取り組みを説明していますので、是非ご覧ください。

動画で見るコスモ・バイオ

コスモ・バイオについて、会社案内動画をご覧いただけます。



ホーム > IR情報 >
個人投資家の皆様へ > 動画で見るコスモ・バイオ

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/finance/movie/>



コスモ・バイオ学術論文賞 “Cosmo Bio Award 2012”

当社商品を使用した研究学術論文を募る“Cosmo Bio Award 2012”。社内選考の結果、以下のとおり大賞を決定いたしました。

横浜市立大学 竹居 光太郎 先生

掲載誌: Science, vol.333, No.6043, 769-773, 2011

すべての応募論文情報(334編)は当社ウェブ上で公開しています。当社は、この企画を通して、当社が販売する試薬や機器を使った実験の情報が研究者に広く利用され、研究に役立つことを期待しています。

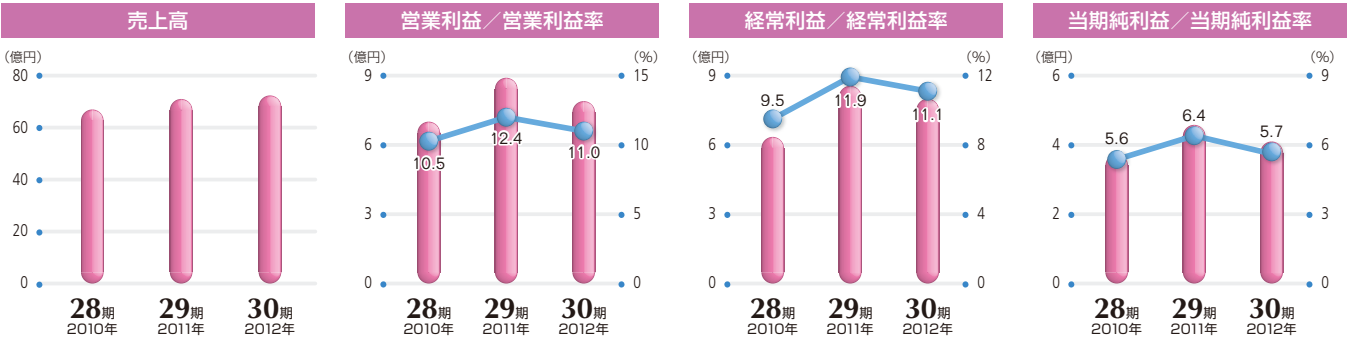
当社はこれからも、研究者の皆様の研究活動をより一層支援してまいります。

表紙について

地球が育んでいる無数の生命体。私たちコスモ・バイオは、その一つひとつに秘められた無限の可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。今回の表紙は、命が“かさなり”あって、未来へ“つながって”いくライフサイエンスの可能性を表現しています。



営業の概況（連結）



業績ハイライト

市場全体は弱い動きが継続

2012年10月に山中教授のノーベル医学生理学賞の受賞が決まるという、バイオ研究への注目が高まる出来事がありましたが、大学及び公的研究機関では引き続き予算執行に慎重さが見られ、市場全体としては弱い動向が続きました。

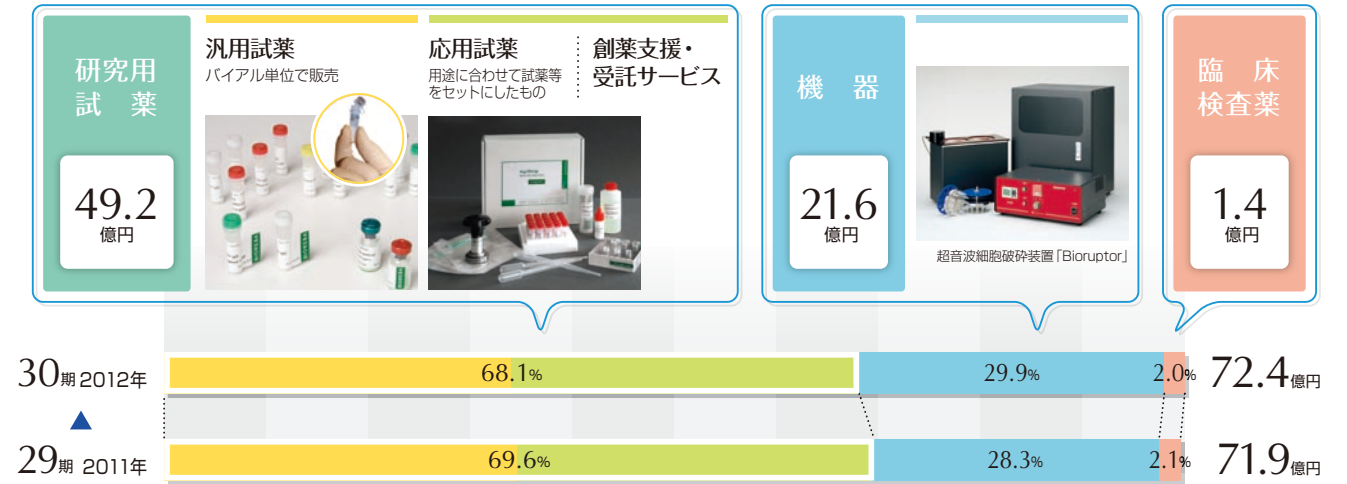
積極的な販売促進活動

国内および海外販売を強化するため、新規仕入先・商品の開拓、商品情報発信等の販売促進に努めた結果、当期の連結売上高は前期比0.7%増となりました。

販売費及び一般管理費の増加

為替レートが円高の状況で推移(前期平均79円/ドル→当期平均79円/ドル)する中、売上確保のため積極的な販売促進活動を行った結果、販売費及び一般管理費が増加し、営業減益となりました。

商品分類別連結売上高



連結財務諸表（要約）および主な連結経営指標

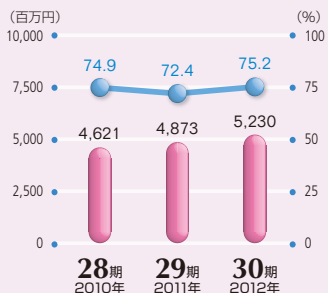
● 貸借対照表

（単位：百万円）

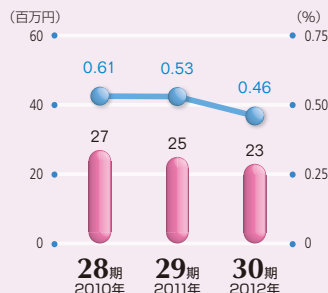
	前期 2011年12月31日現在	当期 2012年12月31日現在
資産の部		
流動資産	5,264	5,413
現金及び預金	1,279	1,341
受取手形及び売掛金	2,310	2,321
有価証券	834	802
たな卸資産	730	836
その他	115	118
貸倒引当金	△ 6	△ 7
固定資産	1,470	1,541
有形固定資産	179	178
無形固定資産	213	162
投資その他の資産	1,077	1,201
投資有価証券	782	862
関係会社株式	11	11
その他	288	327
貸倒引当金	△ 4	—
資産合計	6,734	6,955

	前期 2011年12月31日現在	当期 2012年12月31日現在
負債の部		
流動負債	1,092	916
支払手形及び買掛金	420	475
短期借入金	20	20
未払法人税等	284	135
その他	368	285
固定負債	298	317
役員退職慰労引当金	28	36
その他	270	281
負債合計	1,390	1,234
純資産の部		
株主資本	4,899	5,192
自己株式	△ 67	△ 67
その他の包括利益累計額	△ 25	37
少数株主持分	470	490
純資産合計	5,343	5,720
負債純資産合計	6,734	6,955

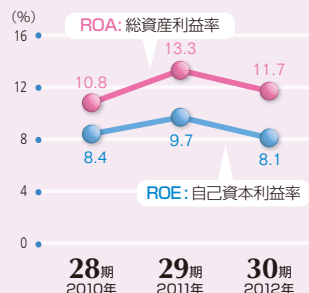
自己資本／自己資本比率



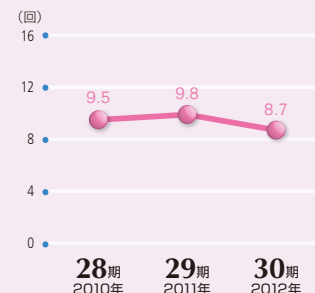
有利子負債残高／有利子負債比率



ROA／ROE



たな卸資産回転率



One Point! 解説① 健全性

当社は、財務の健全性確保に努めております。自己資本比率は、利益剰余金が更に積み上がり、当期末75.2%の安定した状態を保っております。また、自己資本に占める有利子負債の割合を示す有利子負債比率は0.46%と極めて低い水準にあります。

One Point! 解説② 収益力

当社は多くの商品を海外から輸入しておりますが、当期は仕入先の喪失を補うための新規仕入先開拓と積極的な新商材の販売促進活動などに注力した結果、一次的な経費増を招き、ROA、ROEは低下しました。また、在庫品の販売比率向上に努めており、その成果を示す指標の一つである「たな卸資産回転率（年間売上高をたな卸資産で割ったもの）」は9回転前後の高い水準を維持しています。

● 損益計算書

(単位:百万円)

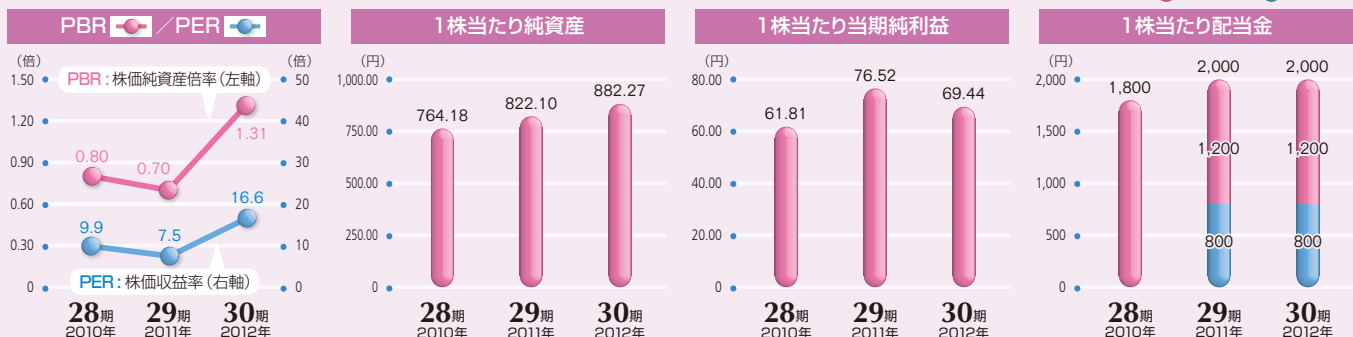
	前期 2011年1月1日～ 2011年12月31日	当期 2012年1月1日～ 2012年12月31日
売上高	7,192	7,241
売上原価	4,008	4,057
売上総利益	3,183	3,184
販売費及び一般管理費	2,292	2,386
営業利益	891	798
営業外収益	49	46
営業外費用	84	43
経常利益	856	801
特別利益	70	3
特別損失	46	30
税金等調整前当期純利益	879	774
法人税、住民税及び事業税	384	327
法人税等調整額	△ 3	9
少数株主損益調整前当期純利益	498	438
少数株主利益	39	26
当期純利益	458	411

● キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 2011年1月1日～ 2011年12月31日	当期 2012年1月1日～ 2012年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	880	347
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 351	△ 167
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 232	△ 126
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 7	8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	289	61
現金及び現金同等物の期首残高	1,181	1,471
現金及び現金同等物の期末残高	1,471	1,532

(注) 株価は各12月期の末日終値



(注) 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に分割したことに伴い、1株当たり純資産および1株当たり当期純利益を遡及修正しております(当該株式分割が第28期の期首に行われたと仮定して算定)。



解説③

株主還元

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考えております。また、前

期より、第2四半期末と期末の年2回の配当をスタートさせております。

当期の配当は前期と同様に、1株当たり中間配当800円、期末配当1,200円、年間配当2,000円とさせていただきます。この結果、連結配当性向は28.8%となっております。

会社概要

(2012年12月31日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の輸出入及び国内販売
 従業員数 連結：121名 個別：80名

役員

(2013年3月26日現在)

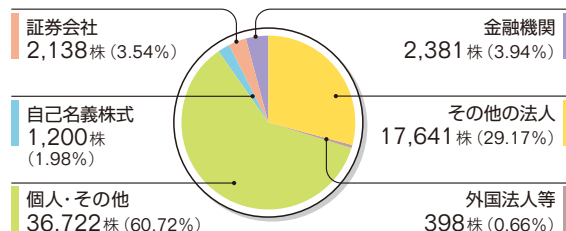
代表取締役社長 笠 松 敏 明
 常務取締役 鈴木 忠 忠
 常務取締役 櫻井 治 久
 取締役 船戸 俊 明
 取締役 世良 伸 也
 常勤監査役 近藤 直 正
 監査役 佐々木 治 雄
 監査役 堀 米 泰 彦

株式の状況

(2012年12月31日現在)

発行可能株式総数.....183,616株
 発行済株式の総数(自己株式1,200株を含む).....60,480株
 株主数.....3,769名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.43
コスモプロパティサービス株式会社	5,760	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	3,552	5.99
大阪証券金融株式会社	2,246	3.79
福井 朗	1,778	3.00
原田 正憲	1,500	2.53
鈴木 忠	1,480	2.50
田中 知	1,480	2.50
高木 勇次	1,480	2.50
福井 一朗	1,043	1.76

(注1) コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です。

(注2) 議決権比率は、自己株式1,200株を控除して計算しております。

(注3) 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に分割しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 定時株主総会 毎年3月開催 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 基準日 12月31日 公告方法 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 剰余金の配当の基準日 6月30日、12月31日 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
 単元株式数 100株* 上場証券取引所 大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード
 証券コード 3386

* 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に分割すると同時に、100株を1単位とする単元株制度を採用(売買単位は1株から100株に変更)いたしました。

株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613